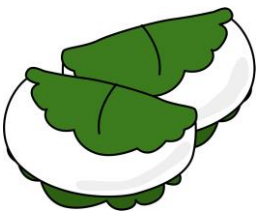
４月の「官浪の文具塾」ご参加者数は過去最高！ますます楽しんでいます。

フルマラソン完走　現在２６８回！

新！走り続ける文具屋さん



裏もご覧下さい

H30/5 月号　No.106

商品とともに『愛情』と『情報』を添えてお届けします！

今月のオススメ商品情報！

PLUS ステーショナリーカンパニー
＜文具・事務用品＞

携帯用はさみでは初！切れ味バツグン！
ベルヌーイカーブ刃を搭載しました。

フィットカットカーブはさみ『ツイッギー』

外出先でのタグ切りや記事の切り抜きなどに最適!

パッケージの開封に

封筒の開封に

糸のほつれに

携帯しやすいスリム形状

【カラー】ホワイト・ピーチ×ミント・ソーダ×レモン・ブルー・ピンク・グリーン・ブラック　　価格：650 円（税別）

☆ 通販にはない『顔が見えるサービス』を提供します！

官浪の『チョッとお邪魔します』

海鮮丼とアレ「どらねこ」さん

塚口駅北口から徒歩 1 分、3 月にオープンした味の選べる海鮮丼が名物のお店です。サザエさんの「お魚くわえた どらねこ‥♪」から名付けられた店名です。お店に入ると、ネコすきのオーニャーが明るくお迎えしてくれます。ランチは**どらねこ海鮮丼**（800 円税別）のみですが、味は a.王道のしょうゆ　b.ピリ辛韓国風　c.特製ごま　d.オリーブオイルとガーリック　e.サッパリおろしぽんずの中から選べます。食べ方は、まずそのまま 3 分の一食べて、次にとろろを投入して食べる、そして最後はだしを入れてお茶漬けにして完食する。一度で 3 回楽しむことができます。ネタが新鮮で美味しいです。夜は刺身や揚げ物など一品料理が味わえます。おススメは**鴨の生ハム**（680 円税別）、**マグロのレアステーキ**（780 円税別）など多数あります。店内は明るく綺麗で、カウンター越しでのオーニャーとの会話も楽しめます。

「アレ」が気になる方は、是非一度お邪魔してみて下さい

【お店データ】
店名：海鮮丼とアレ「どらねこ」
住所：尼崎市塚口町 1-13-22 塚口 ing ビル 2F
ＴＥＬ：06-6427-4230
営業時間：ランチ 11:30～14:00
　　夜　17:00～22:00 (L.O.21:30)
定休日：日曜日（月曜日が祝日の場合月曜日）

【取扱品目】
- ○ 一般文具・事務用品・各種オフィス家具
- ○ ＯＡ機器およびＯＡサプライズ
- ○ 教科書、教材、学校設備具
- ○ ゴム印、印判、各種印刷
- ○ 記念品、粗品等のギフト用品
- ○ 名札、プレート等別注品

新！走り続ける文具屋さん
（官浪伸次）
走り続ける文具屋　検索

官浪直通 090（1240）8438
E-mail kan0024kn@bca.bai.ne.jp
〒660-0861 尼崎市御園町 40 番地
株式会社 本田盛文堂 尼崎
TEL：06-6412-1547　FAX：06-6413-9763

官浪の『文房具雑学』 ～鉛筆編～

日本でも、もっと使ってほしいです。

鉛筆の歴史は古く、1564 年にイギリスのボローデル鉱山で良質の黒鉛の塊が発見されて、握り部分を紐などで巻いて使ったことが始まりとされています。1795 年にフランスの N.J.コンテは黒鉛と粘土を混合して、高温で焼き固めて鉛筆を作ることを発案、1804 年には黒鉛と粘土の混合比率を変えることで濃度を調整できる方法を開発し鉛筆の製法の基礎が確立しました。わが国による鉛筆づくりは明治初期に始まります。小池卯八郎が明治 7 年(1874 年)に小池鉛筆製造所を開設し、鉛筆の製造を開始したとの文献が残っています。その後、明治 20 年(1887 年)眞崎仁六が黒鉛を鹿児島、粘土を栃木、そして軸材を北海道産のアララギとすることで最高の品質となることを突き止め、10 年間の研究を経て眞崎鉛筆製造所(現・三菱鉛筆)を設立し、明治 34 年(1887 年)には逓信省へ初めての国産鉛筆を納入しています。大正 2 年(1913 年)には小川作太郎が小川春之助商店(現・トンボ鉛筆)を開業。その後、二度にわたる世界大戦時に鉛筆の輸入がストップしたことで、国内メーカーで内需の全てを賄うこととなったことで鉛筆業界が活況となり『三菱・トンボ・ヨット・コーリン・地球・森彌鉛筆』などの会社が製造を開始しました。しかし、戦後一部の会社が粗悪な鉛筆を濫造して輸出し、海外での評判を落とすことになりました。貿易自由化となり、海外からの高品質の鉛筆が入ってくることが懸念され、経済成長に伴う鉛筆ユーザーのニーズ変化もあった中、トンボ鉛筆から高品質の鉛筆「HOMO」が昭和 27 年(1952 年)に発売され、その後三菱鉛筆は「6B の黒さで 9H の硬さ」を実現することを目標に研究を重ね、昭和 33 年(1958 年)「UNI」を発売し、爆発的な売れ行きとなりました。またトンボ鉛筆からは、昭和 38 年(1963 年)に最高級製図鉛筆「MONO」を発売、大ヒット商品となり現在に至っています。我が国では学童数の減少により生産数は減っていますが、世界に目を向ければ、筆記具の中で最も多く生産されているのが鉛筆で、発展途上国の識字率が高まることで、鉛筆市場もまだまだ可能性がありと言えます。

眞崎大和鉛筆特約店
（本田盛文堂）

HOMO鉛筆

コーリン鉛筆

トンボ鉛筆８９００

ＵＮＩ鉛筆

【本田盛文堂尼崎のＦＢページも完成！】
是非、いいね
して下さい！

走り続ける文具ソムリエ官浪伸次による、
文房具紹介動画「ぶんぐの森」を配信中。
ＰＣ、スマホから YouTube の
「ぶんぐの森」で検索して下さい。

4/21（土）に第２２回文具塾　開催しました！

今回は過去最高の 19 の方々にご参加いただきました。ありがとうございました。
特に嬉しかったのは私の母校、追手門学院大学の後輩（現役大学生）にも参加してもらえたことです。次回開催の７月も、多くの方のご参加をお待ちしております。

～第 100 回　思い出がいっぱい！～

㈱ステディ・コンサルティング
代表取締役　依岡 聡
転職漫談家®

このチラシ『走り続ける文具屋さん』は半年前に１００回を数えました。私のコラムも今回で記念すべき１００回となりました。思えば長かったような気がします。以前にも書かせていただきましたが、官浪さんと出会ってもう２２年になります。このチラシが二人の迷コンビを続けさせてくれています。それだけに私にとって感慨深いものがあります。官浪さんとの思い出で衝撃だったのは、過去の尼崎市議会議員選挙の選対本部に巻き込まれた私を「ふふふ」と笑っていたあの意味深な笑顔。（わかる方はわかりますよね。）これからの私は『コラムを書き続けるコンサルタント』でありたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。